

生産計画(兼生産記録) (交付金対象 / 認証のみ)

※ 上記「交付金対象」もしくは「認証のみ」どちらかに○をつけること。  
 ※ 複数のほ場で同じ技術で生産を行う場合は、生産者ごとに、ほ場を一括して生産記録を作成してもよい。  
 ※ 以下に示す項目が記載されていれば、様式を変更してもよい。

生産計画NO  
(複数ある場合)

生産計画認定番号(記録)		申請者名等	株式会社 イカリファーム	農作物名(作型等)	水稻
(生産者名等)		ほ場番号		面積a	7907.1

※ほ場番号は、5 生産者・ほ場一覧表に記載した番号を記入する。

フリガナ 確認責任者	住所	電話番号	団体名、所属、役職、職業等
ヤマシ コウヘイ	〒527-0018		
山西 康平	滋賀県東近江市八日市清水3-1-23	0748-23-5588	有限会社 野矢商店

確認責任者 確認欄(記録)	確認月日	/	/	/	確認印または署名	印
------------------	------	---	---	---	----------	---

※複数の生産記録を同一の確認責任者が確認する場合、別に署名または押印した書類を提出することで代えることができる

1 主な作業等

作業名	予定時期(計画)	実施月日(記録)	項目	見込(記録)
播種	4/上		単収(kg/10a)	480kg/10a
定植	5/上		出荷量(kg/10a)	
収穫	9/上		認証マークの表示	有 / 無

※単収および出荷量(見込)は、生産記録提出時に記入する。  
 ※認証マークの表示は、「有」または「無」どちらかに○をつけること。  
 ※購入苗で播種日がわからない場合は記入不要。

2 病害虫・雑草防除の使用農薬(フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入する。)

農薬名(剤型等、商品名を正確に記入すること)	計画		記録		
	化学合成農薬の成分数	使用予定時期	化学合成農薬の成分数	使用月日(記録)	使用量または希釈倍数
温湯消毒	0	4月上旬	0	/	
ゼータプラス	2	5月上旬	2	/	500ml/10a
ビームエイトトレボンゾル	2	8月上旬	2	/	5倍
ワイドアタックsc(500ml) ※必要に応じて	1	6月上旬	1	/	1000倍
				/	
				/	
				/	
				/	
化学合成農薬の成分数計	5				

※のべ使用成分数が化学合成農薬の使用量の基準を超えない範囲内で、当該年度の県農作物病害虫雑草防除基準の当該作物欄に記載されている農薬が使用できる

3 土づくり・施肥の使用資材

資材等の名称(たい肥等の有機物や窒素成分を含まない資材等、農薬以外に使用する資材を全て記入する。)	化学肥料窒素成分の割合(%)	計画			記録		
		使用予定時期	使用量(/10a)	化学肥料窒素成分量(kg/10a)	使用月日	使用量(/10a)	化学肥料窒素成分量(kg/10a)
稲わら		10月	全量		/		
堆肥		11~4月	1トン		/		
びわこ培土2号		4月上旬	13枚	0.02	/		
サンバ444	14	5月上旬	15kg	2.1	/		
苦土入り4862	14	7月	10kg	1.4	/		
					/		
					/		
					/		
※化学肥料窒素の基準を超えない範囲内で別の資材を使用できる。				化学窒素成分量計(計画)	3.52	化学窒素成分量計(記録)	

4 環境配慮技術(琵琶湖・周辺環境への負荷削減、生態系保全・景観形成)

必須技術	技術の内容	実施チェック欄	
		計画	記録
必須技術	●水田からの濁水の流出防止	計画	記録
	①あぜ塗り、けい畔シートの利用、けい畔の補修等による漏水防止対策を行う。	■	□
	②田植え時期前後に尻水戸、けい畔からの漏水がないことを確認する。	■	□
	③浅水代かき等により田植前(直播を含む)の強制落水を行わない。	■	□
	●周辺環境に配慮した農薬の使用	計画	記録
	①種子消毒の廃液を適正処理する。(廃液の出ない種子消毒法(温湯消毒、粉衣消毒等)を実施する場合は、実施したものとみなす。)	■	□
	②ほ場への農薬散布後1週間程度の落水、漏水を防止する。(農薬を使用しない場合は実施したものとみなす。)	■	□
	③液剤を使用する場合は、薬液が残らないように調整する。やむを得ず残った場合は散布むらの調整等に利用する。(液剤を使用しない場合は実施したものとみなす。)	■	□
	●農業用使用済みプラスチックの適正処理	計画	記録
	・作物の生産に伴って発生する使用済みプラスチック等の廃棄物の処理は関係法令に基づき適正に行う。	■	□
選択技術	【琵琶湖・周辺環境への負荷削減】	計画	記録
○から2技術以上実施	○水田ハローの利用	■	□
	○局所施肥	■	□
	○緩効性肥料の利用	□	□
	○温湯消毒の実施	■	□
	○土壌診断に基づくリン酸資材の施用	□	□
	○飛散の少ない液剤防除の実施	□	□
	【生態系保全・景観形成】	計画	記録
	○除草剤を使用しないほ場周辺除草	□	□
	○化学合成農薬を使用しない栽培の実施(本田)	□	□
	○水田を活用した生物生息環境の保全	□	□
	○生き物調査や子ども達との交流の場の提供	■	□
	○地域の未利用資源の有効活用	□	□
	○畦畔、ほ場周辺への景観作物の植栽	□	□

※必須技術のほか、選択技術から2技術以上選択し、実施する(した)技術の□にチェックする。